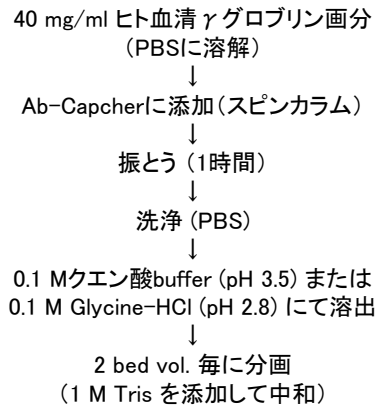
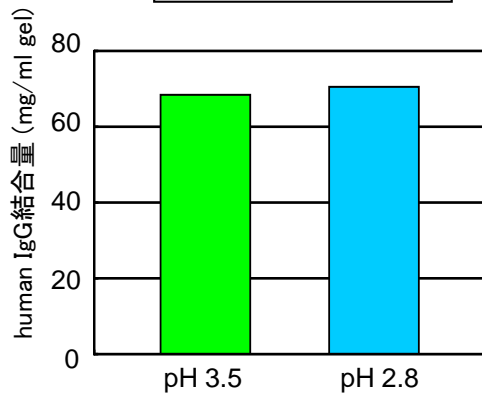


# Ab-Capcher™を用いた ヒトIgG精製時の溶出条件検討

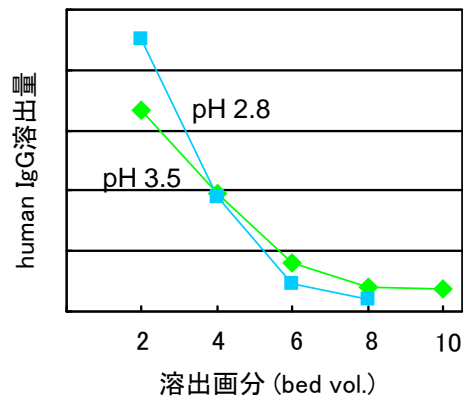
## 精製の流れ



## ヒト血清IgG結合量



## IgG溶出パターン



ヒト血清γグロブリン画分(40 mg/ml)の150 μlをAb-Capcher 50μlと反応させたのちに、pH 3.5またはpH 2.8のbufferで溶出し、2 bed vol 毎に分画・中和した。

Ab-Capcherに結合したヒトIgGの溶出はpH 3.5ではpH 2.8に比べて遅れる傾向にあった。プールしたところ、pH 3.5溶出画分で68.4 mg/ml gel、pH 2.8溶出の場合で70.5 mg/mlのヒトIgGを回収した。すなわち、pH 3.5の条件でpH 2.8の97%に相当するIgGを回収することができた。

## プロテノバ株式会社

〒769-2604

香川県東かがわ市西村1488番地1

TEL 0879-49-0702 / FAX 0879-49-0703

ホームページ <http://protenova.com>